

リベンジならず

壱岐市選抜監督 松永利孝

第4回全国離島交流中学生野球大会は、今年も大いに盛り上がった。あいにくの雨により、大会初の二チーム優勝という結果で幕を閉じた。決勝戦が中止となったのは残念だったが、決勝の舞台まで勝ち上がった両チームの健闘をたたえるとともに心から祝福したい。

大会も回数を重ねると、村田兆治さんはじめまさかりドリームスの方々や、他のチーム関係者とも顔なじみになってきて、懐かしさのようなものを感じ始めてきている。「あ、この顔は去年も見たな。」とか、「今年もあの顔を見られるだろうか。」というような、情動的な部分での一体感が芽生え始めていることに気づかされる。一年に一度だけの出会いであるにも関わらず、そういう気になることを思えば、地道に回を重ねることの持つ意味合いの大きさを教えられているような気がする。各島々の選手の交流はもちろんのこと、チーム関係者同士の交流の場としても、この機会を生かしたいと考えている。

さて、今年の上島大会。「昨年のリベンジを果たし優勝旗を持ち帰る。」ということがチームの目標であった。それができるだけチーム力であるという自負もあった。準決勝を迎えたときのチームのメンバーの顔つきは、頼もしいものであり、試合中のプレーぶりも上質のものであった。しかし、残念ながらリベンジならず。チームの流れを呼び込むきっかけを作ってやれなかったのは、私自身の責任だと思っている。島に帰ってからも、試合中の場面場面が何度頭の中によみがえってきたかわからない。このもどかしさや無念の情があるからこそ次への意欲となり、未だに野球にしがみついているのだと思う。

選手みんなには心から感謝している。佐渡高校が甲子園に出たように、壱岐の子どもたちもいつか夢を現実に変えてくれることを信じている。何か方法はあるはずだ。夢に向かってがむしゃらに邁進する高校球児になるであろう君たちを、陰ながら応援し続けたい。

最後に、上島の関係者の皆様には心からお礼を申し上げます。毎日、栄養たっぷりの食事を準備して下さった亀屋旅館の女将さん、壱岐チーム専属の世話役だった後藤さんには、特に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

離島甲子園を通して

山下航希

離島甲子園に参加してすることになり、たくさんのいろいろな離島が集まるので、どんなチームがいるのかわくわくしました。そして、実際に試合をしてみるとどのチームも強かったので、すごいなと思いました。

今年の壱岐市選抜の目標は、去年できなかった優勝だったので、3位という結果はとても悔しかったです。優勝を狙えるチームだったし、ちょっとしたミスで失点してそれが決勝点となったので、野球は最後まで何がおこるかわからない、こわいなと思ったし、逆に野球のおもしろさも実感できました。また、この離島甲子園で元プロ野球の人たちに、たくさんのことを教えてもらえたことも思い出になりました。

この離島甲子園に参加できたのも、親やこの大会を成功させるために尽くしてくださっ

た方たちのおかげだと思っています。そういう人たちへの感謝の気持ちも忘れないようにします。

この離島甲子園大会で学んだ、感謝することや、勝負は最後までわからないということ、を今後の生活に生かしていきます。

離島甲子園

板川航大

一試合一試合がとても緊張しました。いろいろな島のチームがありましたが、どのチームも声が出ていたり、元気があっていいなと思いました。この声や元気で試合の流れが変わったりするなど改めて実感しました。

壱岐のチームとしてチームメイトと一緒に過ごす時間はとても短いものでした。この短い時間で、みんなと仲良くなれたし他のチームの人とも話ができるようになりました。

野球というスポーツを通してさまざまなことを学ぶことができました。野球は最後まで何が起きるかわからないとても怖いスポーツだとも思います。準決勝での試合は、少しの油断で一点が入り、その一点で負けてしまいました。もし高校でも野球をするなら最後まで油断せず全力プレーをしたいです。この経験を生かして、これから先さまざまなことに全力で取り組みたいです。

離島甲子園を終えて

平川貴啓

壱岐の選抜メンバーに選ばれたとき、本当にこんなへたくそな僕が、壱岐市の代表でいいのかなという気持ちが嬉しさと一緒に入り混じっていました。その日から壱岐市代表として恥をかかないように、毎日下級生に混じって練習を頑張ってきました。

8月に入り、とうとう壱岐市選抜としての練習がスタートしました。最初は周りのレベルの高さに驚きました。と同時に今まで以上に気合いが入りました。うまくチームに溶け込めるか不安でしたが、回を重ねる毎にチームに溶け込むことができました。

松永先生、竹尾先生、野田先生のもとでの練習は、とても楽しく真剣に取り組むことができました。

そして壱岐の看板を背負って挑んだ大会、全国という名のついた大会は初めてでした。でも僕は、相手のムードに飲まれず、うろたえることなく、みんなと野球を楽しもうと思いました。

そして2回戦から出場した壱岐市選抜は、甬島選抜との対戦でした。出場機会はなかったけど、チームメイトが楽しんでいるのを見て、僕も楽しくなりました。

次の奥尻うにまるファイターズとの対戦では、スタメンで出場することができました。守備では持ち味の守備範囲の広さを発揮することができました。攻撃でも自ら安打を打ち、持ち味の積極走塁で得点しました。この試合も快勝し、自分たちの野球ができました。

そして大事な準決勝。去年ここで悔しい思いをした先輩たちのため、そしてチームのため、彦岐市民のために挑みました。試合は総力戦となり、終盤までもつれる試合となりました。そして最終回、1点を先制され追う立場となりました。しかしチームはこのとき諦めずに獲物を狙う猛虎のような目をしていました。やっぱりすごいなと思いました。しかし必死の攻撃も実らず、決勝へ進むことはできませんでした。

3位という結果でしたが、僕は立派な成績だと思いました。彦岐には胸をはって帰島することができました。親に会うと、頑張ったねと言われて、野球をやってよかったと思いました。

これからは様々な方々に感謝の気持ちを忘れずに野球を続けます。そして甲子園、もしくはプロでこの悔しさをはらしたいと思いました。いえ、はらします。

いつか機会があれば、村田さんと勝負したいと思いました。

彦岐市選抜

永村常成

彦岐市選抜チームは、少ない人数の中での練習でした。まさか自分が選ばれるとは思っていませんでした。だから選んでいただいた方に感謝して試合に臨みました。

初めての離島交流試合は、僕たちにとってとてもいい思い出となりました。たくさんのチームがありましたが、僕の知っているチームは一チームもありませんでした。でもそれが、いい緊張感をもって試合ができたことにつながったと思います。

僕がピッチャーで出たとき、雨が降っていました。雨の中でのピッチングは初めてでした。とてもボールが滑り、思ったところにボールがいきませんでした。でもチームのためにも踏ん張りました。

彦岐市選抜は3位でした。その結果が残せたのは、チームのみんなが一つになったからだと思います。キャプテンの吉村君は誰よりも声を出し、チームを盛り上げてくれました。このチームで試合ができてとても幸せでした。

離島甲子園での思い出

久保周史

僕は最初、彦岐市選抜チームに選ばれたことに驚き、そして嬉しかったです。僕にとってはたぶんこれで最後になるであろう野球の大会が、レベルの高いところで行えることがとても嬉しかったからです。

この大会では、そしてチームからは、これからの人生に役立つことをたくさん学びました。一つ目は同じ目標を持った仲間が、それに向かって努力すると、例え負けたとしても自分たちはできることを全部して負けたのだからと胸をはることができるということと、そういうチームの中で得た団結力やチーム力はとても強いということです。僕はこの大会ではベンチでほとんど応援する側の選手でした。でもベンチにいても心は一緒にグラウン

ドでプレイしていました。それにうちの選手は、同い年とは思えないくらいプレイが華やかで見ていて楽しくなるからです。

一試合目は投打がかみ合って快勝して次の日につながりました。二試合目、僕は7番セカンドで出て無事勝ちました。その試合はフル出場させてもらい、3打数1安打でした。一試合丸ごと出してもらえるととは思っていなかったのですが、実際にグラウンドでプレイさせてもらって楽しかったです。この試合で改めて野球って楽しいなあと思いました。その試合のあとは雨がぽつぽつ降っていたので、体育館で昼食をとりました。僕も負けず嫌いだけど、エースの小川君は相当の負けず嫌いだなあと思いました。それはマッサージをしているとき言葉とは逆に、肩周辺が相当こっていたからです。でも小川君の言うことはなぜか信用できるものでした。

三試合目は地元の愛媛チームの上島との一戦でした。その試合は確実に老岐が押ししていました。ランナーは出るけどあと一打が出ない状況でした。7回表、上島がヒットで出て送りバントでランナーをセカンドにおいて2死後センター前ヒット1本で点を取られました。そのあとの攻撃、よし僕らの逆転劇だと思ってベンチから迎入れたけど、明らかに空気が重いと思いました。気がついたらゲームセット。このチームで負けたのかと思いました。二つ目に学んだことはこれだと思います。どんなに団結力があり、努力してきたチームでも100%の確率で勝つことはできない。それが勝負の世界だということです。負けたあとのチームの空気はとても重かったです。でも村田さんがわざわざ来てくださって、いつの間にか野球教室を開いてくださり、空気が軽くなったと思いました。結果的には僕たちは目標の優勝には届きませんでした。でもとても楽しかったです。宿舎ではみんなで馬鹿やっておもしろかったです。悔しい気持ちもあるけど、愛媛にまで送り出してくれた親や、暑い中指導して下さった松永先生、竹尾先生、野田先生そして地元上島のスタッフのみなさん、大会を提唱者の村田兆治さんに感謝します。本当にありがとうございました。

離島交流大会で思ったこと

山崎悠太郎

離島交流大会を通して思ったことは、野球とはとてもおもしろいけどその反面とても難しいスポーツだということです。一つのプレーで流れが変わり、一つのエラーがそのまま負けにつながることもあります。だからとても難しいものだと思います。

今回の大会で僕たちのチームが心がけたことは、チームワークをよくすることです。試合を実際にするのは選手です。だから選手間のチームワークを磨けばエラーも減ってくると思います。また、選手と監督の意思の疎通も大切だと思います。同じサインでも今監督がどのような気持ちで出しているかということもわかっておかなければならないからです。

もう一つ気づいたことがあります。それは自分が野球を当たり前のようにできることへの感謝です。今、東北地方の中学生は津波や放射能等の影響で、満身に練習できる状態ではないと思います。だから、同じ中学生として同じ気持ちで頑張らなければなりません。そのためにも練習にまじめに取り組んでいきたいです。

この大会が終わって感じたことは家族への感謝の気持ちです。これからも野球ができるありがたみを感じながら高校生になっても頑張りたいです。

最後にこの大会を通していろいろなことを学ぶことができたのは、村田さんをはじめとする大会関係者のみなさんのおかげです。貴重な体験ができて、とても嬉しかったです。本当にありがとうございました。

離島甲子園

松永翔太

僕は今回の離島甲子園で改めて感じたことがありました。それは自分より上手い人は、いくらでもいるということです。

自分は彦岐代表でチームに入る前に芦辺中学校というチームにいました。このチームでは、自分は三番センターという重要なところを任せられていました。バッティングは打るときと打てないときがあつて離島甲子園のチームに入ったときは、ほとんど打っていませんでした。守りの面では、自分は足が遅く肩も弱いですが、送球の際のコントロール、スピードそして守備範囲には自信がありました。けれど試合では使われませんでした。とても悔しかったです。チームの勝利と自分の番に回ることを信じて、声を出し続けました。そして自分の番が回ってこないまま準決勝まで進みました。準決勝のオーダー発表でも自分の名前は読まれませんでした。途中、代打で出そうになったけど、結局出ることのないまま1対0で敗れてしまいました。

僕は尊敬する野球選手は三人います。鈴木一郎さん、野村克也さん、ノーランライアン投手です。僕はこれからこの人たちの本を繰り返し読み続け、いい手本として野球で食べていけるようになり、今お世話になっている方々に恩返しをします。

今回の離島甲子園では、いいチームメイトに会うことができたし、いい監督の下でプレーすることができたのでよかったです。これからは、高校に入って硬式野球で頑張ろうと思っています。

離島甲子園を終えて

辻川健彦

僕は小学三年生から野球をしています、「全国」の名前が付いた大会は初体験でした。今年は彦岐のチームはとてもいい選手ばかりで、自分が彦岐選抜に選ばれたことはとてもびっくりしました。

第3回大会では3位で終わっているので、今年こそは優勝するぞという気持ちで臨みました。初戦の試合から、2番セカンドで起用されたのでびっくりしました。自分のバッティングや守備・走塁ができたのでよかったです。準決勝では、地元上島チームとしましたが、とてもいい試合ができました。

まさかりドリームスの選手は、真剣にわかりやすく教えてくださってとてもいい勉強に

なりました。

最後に、この大会に協力・支援してくださった方々に感謝します。

選抜の最初から最後まで

小川祐弥

僕は、選抜の練習が始まってからうまくやっていけるかどうか不安でしたが、選抜チームの仲間とは、すぐ仲良くなっていけて、練習を重ねていくうちに、自分の思っていることや意見を言い合える最高の仲間となりました。この選抜メンバーで挑んだ試合は、惜しくも3位という結果になりましたが、みんなで一生懸命戦ったこの試合の一つ一つは忘れられない宝です。

3位という結果でしたが、みんなは打撃や守備で助けてくれました。本当に投手をしていて心強い仲間でした。打撃では得点差をたくさんつけてくれて、ピッチャーをしていてとても力まらずに楽に投げることができました。守備の面では、とても頼もしいバックだったからみんなを信じて投げることができました。本当にこの選抜メンバーで戦えたことがとても嬉しいです。

離島甲子園を終えて

吉村勝彰

今回の大会に参加し、一日目の組合せ抽選会では、長崎県のチームで知っているメンバーなどもいて、楽しく交流することができました。

初戦、二戦目と勝ち、準決勝で上島チームに負けてしまいました。最終日は野球教室とさよならパーティーがありました。

野球教室では、基本から各守備について教わり、足のあげ方、腕の振り方、ステップの位置などたくさんのお話を教わって、これからの課題を見つけることができました。

さよならパーティーでは、他県でほとんど交流のないチームのメンバーと交流することができ良い思い出になりました。

このような大会を開催するために関わった方々に感謝したいと思います。

「ありがとうございました」

離島甲子園

酒井仁汰

僕は中学野球をする中で、中体連の県大会にも行けたし、楽しい思い出もさせてもらいました。その中で、この選抜チームに選んでもらえて、また楽しい思い出をさせてもらえるようになりました。練習に初めていったとき、背番号のついたユニフォームを受け取りました。壱岐の代表ということになったことが実感できました。練習をする中でも、みんな上

手な選手ばかりで、先生方も指導に熱心で、楽しくまた多くのことを学びながらプレーできました。

大会会場は島を船での移動がたくさんありました。旅館ではみんな仲が良く、消灯時間になっても話が絶えませんでした。試合に入るとみんな真剣で、「優勝」を目指す意志があふれていました。試合の中で失敗したり、ベンチで声をかけたりとチームに貢献することはできなかったけど、次につながる多くの経験をさせてもらいました。たくさんの方々に感謝しています。

離島甲子園の感想

今田拓志

僕は第4回離島甲子園に参加しての感想は、まずは全国の離島中学生のみなさんと交流し、試合をすることができたことがとてもいい経験になりました。目標は優勝でしたが、結果は3位と悔しかったけど、その後のまさかりドリームスのみなさんによる野球教室では、みなさんが熱心に教えてくださったので、とてもわかりやすく勉強になりました。

その後のお別れパーティーでは、他のチームのみなさんと触れ合うことができ、楽しかったです。途中のミニゲームではみんなで盛り上がり上がったので楽しかったです。

今大会では、普段経験できないことが経験できたので大会関係者のみなさんや保護者、先生方に感謝して過ごしたいです。

初めての離島甲子園

松永大輝

僕は、最初で最後の離島甲子園に参加していろいろなことを学ぶことができたし、いろいろな出会いもありました。

抽選会するとき「こんなにも人がいるんだ」と思い、すごく驚きました。僕らは2回戦からの試合で、1試合目は5対0で勝つことができました。2試合目は6対3で勝つことができました。準決勝は上島との試合で、アウェー状態だったので緊張してしまい、思うようなプレーができなく、1対0で完封負けをしてしまいました。でも悔いは残っていません。上島といい試合ができてよかったです。

野球教室では、元プロ野球選手に野球の基本や応用を教えてもらい、とても嬉しかったです。自分が普通にしていることは基本じゃなかったと思うことがあり、自分の間違いに気づくことができたと思います。

お別れパーティーでは、いろいろなチームの人と話したりして楽しく、途中のミニゲームもすごくおもしろかったです。一つ疑問に思ったことは、沖縄の人はなぜ指笛があんなにうまいのかということでした。うらやましいです。

初めて参加する大会で、いろいろなことを学ぶことができ、いい出会いもたくさんあって、とてもいい経験ができました。

大会の関係者や保護者、先生方などに感謝します。

離島甲子園に参加して

斉藤勇真

今回の第4回離島甲子園に参加し、全国のチームと試合をし、交流ができたことはとても嬉しかったです。そしてとてもいい経験になりました。大会では、やっぱり優勝がしたかったです。優勝が目標だったので負けたときはとても悔しかったし、悲しかったです。全国はすごいなと思いました。

しかし、この大会ではすばらしい思い出もたくさんできました。まず一つは、「老岐」という一つのチームとしてみんなで頑張れたし、仲良くできたということです。みんなでいた時間はいつも楽しかったです。二つ目は、全国のチームと交流ができたことです。中にはとても仲良くなれた人もいました。今度は甲子園で会おうなどと約束もしました。今度会えるときがとても楽しみです。そして三つ目は、有名なプロ野球選手から野球を教えてもらったことです。自分の悪いところを教えてください、アドバイスを下さったことはこれからの野球のためにとっても役に立つと思います。とてもありがたかったです。昔からの夢だったプロ野球選手になるという思いがもっと増えました。これから教えてくださいったことを忘れずに野球を頑張っていこうと思いました。すばらしい一日でした。この大会で学んだことは、まだたくさんあります。自分の実力や、周りの人たちの実力がどれほどすごいかなど他にもあります。たくさんのことを学ぶことができたこの大会にとっても感謝しています。一生の思い出です。この大会で中学生での野球は終わりますが、高校でこの大会で経験したことを生かして、頑張っていきたいと思います。老岐の代表としてプレーできたことをすばらしく思います。本当にありがとうございました。

離島甲子園に参加して

中本瞭也

ぼくは、今回の離島甲子園で多くのことを学んだり感じたりしました。

まず、地域ごとに野球のスタイルが微妙に異なることです。守備位置や声かけなど勉強させられることがありました。

次に感じたのは、上島のみなさんの丁寧なサポートです。今思えば、あれだけスムーズにスケジュールを消化できたのは上島のみなさんのおかげだったと思います。

最終日のお別れパーティーでは、北海道の人や沖縄の人と話すことができ、貴重な体験となりました。

最後に、大会に協力して下さったスタッフのみなさん、村田兆治さんを初め指導をして下さったプロ野球OBのみなさん、また監督や引率の先生方、数え切れないほどの人から支援をいただいて試合または交流が行えたと思っています。本当にありがとうございました。

離島甲子園に参加して

竹尾勝彦

2年ぶりにコーチ兼帯同審判員として離島甲子園に参加しましたが、村田兆治さんをはじめ、各関係者の方々のご尽力に頭が下がる思いと、このようなすばらしい大会でプレーできることのありがたい思いを改めて感じました。壱岐の子どもたちがはつらつとプレーする姿を見て、参加して良かった、チームに関わってきて良かったなあという気持ちでいっぱいでした。結果は3位でしたが、大会を通して野球のすばらしさ、楽しさ、そして礼儀やマナーの大切さを改めて学ぶことができました。この経験は今後の私の野球人生において必ず役に立つと思います。将来は壱岐の高校が甲子園に出場し、活躍する日が来ることを夢見て、壱岐市内の中学校関係者で協力し頑張っていきたいと思います。

最後に、優勝した久米島・上島両チームの健闘をたたえると共に、来年もまた上位に食いこめるように頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

